厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究
～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究１】拠点病院を中心とした教育講演、意見交換、研修教材の作製

研究分担者：高田　清式（愛媛大学医学部附属病院　教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、機能評価と体制整備に関する本研究によってHIV診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和3年度の研究成果として、本研究では拠点病院を中心としたネットワーク会議、意見交換、研修教材の作製を行った。地方でのHIV診療のモデルとして体制整備・充実に努めつつありさらに四国全体に広げていくことを計画し実行しつつある。

研究分担者
末盛浩一郎・愛媛大学医学部・准教授
武内世生・高知大学医学部・准教授
窪田良次・香川大学医学部・教授
尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局次長
井門敬子・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長
中村美保・高知大学医学部附属病院・看護師

A.研究目的

四国内にブロック拠点病院がない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計210名以上の患者を治療している。四国地区は近年HIV・エイズ患者の増加が著しく、当県もエイズ拠点病院に指定されている病院が17施設もあるものの殆どが診療未経験であり、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が各県31.5～34.8%であり、都市に比べ高齢者のHIV・エイズ患者が多く、HIV感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているがHIVに対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえ、当院では数年前よりHIV診療チームを立ち上げ活動しつつある。こうして愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべきHIV感染症患者は多くかつ経

済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。このような背景のもと、中核拠点病院の立場から、県内の病院・施設との連携整備、さらには県・市の保健行政との連携も踏まえ、HIV感染者・エイズ患者に対する診療体制を整備し充実を図りたいと考えている。また、高齢化と患者数の増加にて同様の背景である四国他県の拠点病院も研究対象として活動していく計画である。ブロック拠点病院が存在しない四国地区全体のHIV/エイズ診療体制の充実に努めることを継続して実行していきたい。

さらにこれらの研究成果は、エイズ学会をはじめ多くの機会で公表・報告していくことで、他府県などにモデル地区としての立場で発信し、四国のみならず全国の地域のHIV診療の充実に努めたい。

B．研究方法

拠点病院を中心とした教育講演、意見交換、研修教材の作製

四国全体の各拠点病院のHIVに関する啓蒙、意見交換を図るために、各県の行政の協力を得てHIV診療ネットワーク会議（各県全域の拠点病院が参加）や各病院にて講演会を開催し、かつ情報収集のため意見交換を行う。また、四国地区で使用可能な研修教材の作製に着手する。四国全体で合同の看護師研修会、症例検討会を行う（コメンテーターとして国立国際医療研究センター医師も参加）。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C．研究結果

愛媛県の各拠点病院のHIVに関する啓蒙、意見交換を図るために、県の行政の協力を得てHIV診療ネットワーク会議（県全域の拠点病院が参加し討論）を令和4年2月22日にWEB会議にて開催し、県の行政（衛生研究所）から現在のHIV感染者の現況報告、各拠点病院のアンケート集計と討議、当大学病院のHIV診療の現況、LGBTに関する学校教育の話題（ほこいし医院からの報告）、中四国内のHIV関連認知機能障害の現況などの話題提供・討議を行った。さらに高知県では「高知県HIV感染症研修会」がオンデマンド形式にて84名の参加による研修が行われた（令和4年2月1日～28日の期間に視聴）。また、四国内の拠点病院の意見交換目的で、令和4年1月30日に四国地区エイズ診療中核拠点病院HIV担当看護師連絡会をWEB会議にて行い4県12名の看護師（他に医師2名）が参加し、各病院の実情や行政との連携に関して討議を行った。さらに、同日午後に四国地区エイズ診療中核拠点病院HIV診療医師研修会を開催し四国各地区から計3例（抗酸菌症例、梅毒合併例など）を提示し、コメンテーターとして照屋勝治先生（国立国際医療研究センター）にも参加していただき、四国の医師7名と他に看護師（午前から継続参加）、薬剤師、MSWも参加のもと合同で各症例の討議を行った。

介護をするうえで必要になる抗HIV薬などの薬の紹介と内服法の冊子「在宅介護に役立つ薬の情報～抗HIV薬の基礎知識～」を作製し、県内の各介護施設および全国の中核拠点病院に配布した。

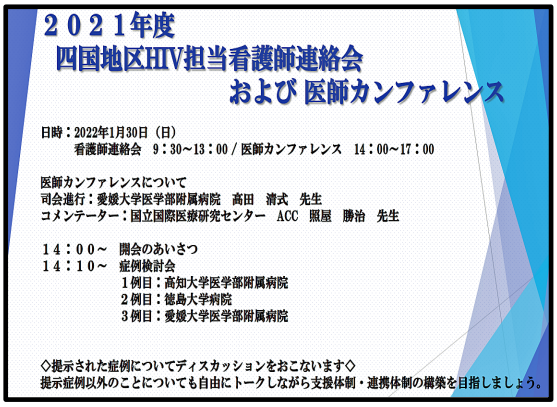
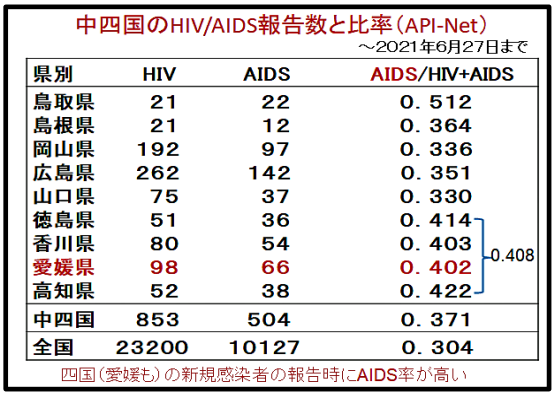


図１四国地区 HIV 担当看護師連絡会および医師カンファレンスの案内



中四国のHIV/AIDS報告数と比率（API-Net）
～2021年6月27日まで

県別	HIV	AIDS	AIDS/HIV+AIDS
鳥取県	21	22	0. 512
島根県	21	12	0. 364
岡山県	192	97	0. 336
広島県	262	142	0. 351
山口県	75	37	0. 330
徳島県	51	36	0. 414
香川県	80	54	0. 403
愛媛県	98	66	0. 402
高知県	52	38	0. 422
中四国	853	504	0. 371
全国	23200	10127	0. 304

0.408

四国（愛媛も）の新規感染者の報告時にAIDS率が高い

拠点病院アンケート集計結果（2022年）

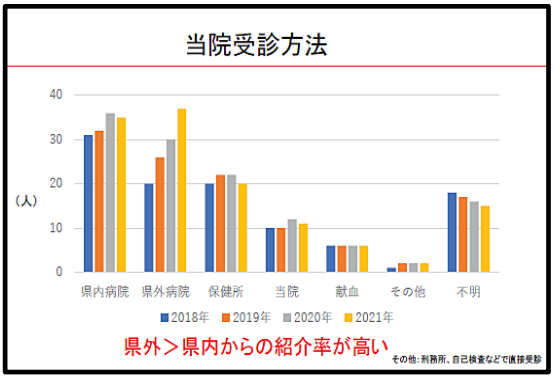
1．HIV感染症・患者の受け入れ実績
9/２２病院
＊現通院（入院）患者数：126＋１９人
意見：毎年このような会議で県の現況を知りたい（＋Up to dateの知識）
相談したいときの問い合わせ窓口を設置してほしい

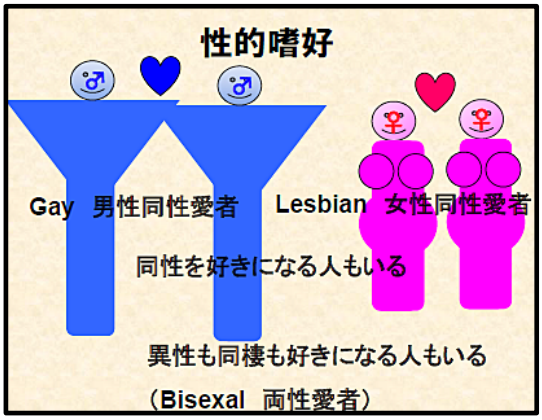
2．治療に関して　１４病院回答
自院で治療３病院、病院への紹介を決めている１１病院

3．担当者（決まっている人数）１７病院回答

人数	１人	2～3人	4～5人	5＜	0～不定
医師	１０	4	1	1	1
看護師	5	7	0	1	4
薬剤師	8	1	1		7
MSW	8	1			8
臨床心理士	4	0			１３

4．感染マニュアルについて　１９病院回答
HIVに関し幅広い記載７病院、一部記載２病院　針刺し事故のみ記載１０病院





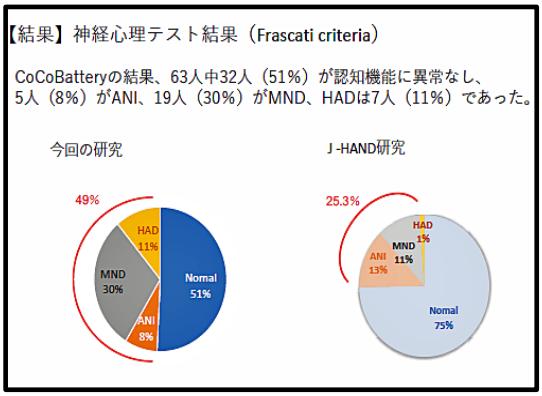


図２～６ネットワーク会議の資料（抜粋）

また、今年度の注目点として、愛媛県歯科医師会との連携のもと、HIV 感染者の円滑な歯科診療を目的に、現時点で HIV 感染者の治療の受け入れが可能かどうか県内の歯科医院にアンケートを行ったところ 97 医院が受け入れに賛同され、感染症の知識を深めるために令和４年２月６日に「HIV を中心とした歯科における感染症」について講演を行った（高田清式）。目下、歯科医院との紹介状などの様式の統一など具体的な連携・整備を実施しつつある。

D．考察

地方における病院・介護施設間の HIV 診療連携として高齢化の著しい四国地区をモデルに、地方における HIV 診療および介護連携に関する啓蒙とともに実態調査を行った。全国的に少子高齢化社会になりつつあ

り、高齢化が一歩進んでいる愛媛県および四国は、今後の HIV 感染者の高齢化と介護・福祉対策を考える上で代表的なモデル地区と考える。

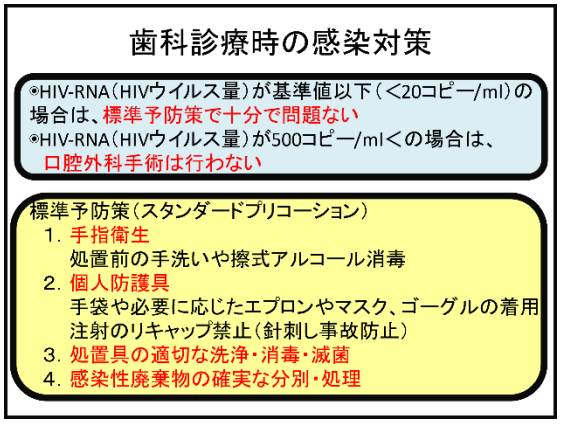


図７，８歯科医師会の講演の資料（抜粋）

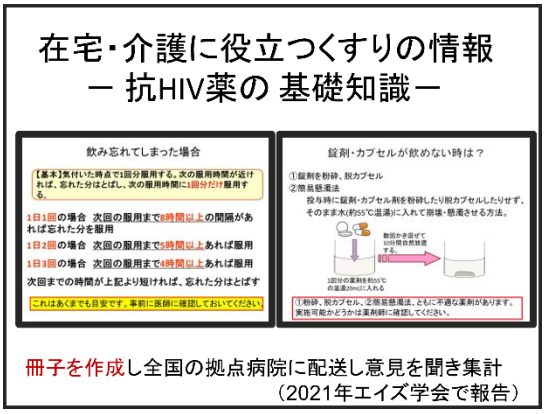


図９在宅介護に役立つ薬の情報（抜粋）

四国地区にはブロック拠点病院はないものの、当院では令和 4 年 3 月末現在累計 210 名以上の HIV 診療経験があり（県内の大半の HIV 診療を担当）、愛媛県での中核拠点病院の立場にある。また、四国の他県からも患者は通院している現況である。HIV 感染者・エイズ患者が全国的に増加する傾向にあるが、四国も例外ではなく、愛媛県においても新たに毎年 10 名以上の新規感染者・患者が報告されており、また他府県から年配の帰郷者も少なからずあり、そのため高齢の HIV 感染者が多く見られ HIV 診療の充実は早急に迫りつつある課題であると考えられる。昨年度も南予の山間部（鬼北町）に帰郷しかつ当院まで継続通院できない高齢者の HIV 感染者を地域連携のもと近くの医療機関に紹介し便宜を図った。さらに愛媛県をはじめとする地方においては、高齢の HIV/エイズ患者が比較的多く、愛媛県において令和 3 年度末現在 50 歳以上の 8 割は発見時にエイズ患者であるという現実がある。なお、高齢化の進んだ地方においては、薬剤の改良・開発が年々進んでいるものの、今後 HIV 感染者の高齢化とともに薬剤の副作用を考慮した内服継続・薬剤の減量なども重要な観点として検討していく必要があると思われ、四国地区に応じた実践的な（全国の薬剤師からの意見も取り入れつつ）抗 HIV 薬および併用薬に関する資料を作製した。

いずれにしても HIV 患者の早期発見を目的として、留意点の強調および患者の増加を抑制するための HIV 感染に対する予防啓発とともに、現実の感染者に対して地方の各地域・病院において HIV 診療の向上と福祉の連携体制の充実を図ることは重要な課

題であり、今後もさらに指導・教育および現況を把握するための調査研究に努めたいと考える。

また、四国全県の看護師、医師、他の医療スタッフがWEBにて集合し、福祉連携体制・各症例提示による治療法の検討などについて、第一線でHIV診療されている国立国際医療研究センターの照屋勝治先生にも協力していただき十分に討議・連携ができたことは四国地方全体を考える上でも有意義であった。高齢化にあたり、HIV診療および福祉連携のあり方についてさらに充実に努め、高齢化率の高い愛媛県のような四国地方においても、早期発見や重症患者の治療が十分に行われるように常々心がけて、充足した生活が１人では送れないHIV感染患者に対し、拠点病院および介護福祉間の連携が円滑にできるように努めていく必要性があると考える。なお、その介護福祉連携のモデル地域として今後も研究・報告を当地区から全国に発信していきたいと考える。

Ｅ．結論

ブロック拠点病院がない地域において、HIV診療体制整備のために各地域で講演会・会議を行い介護施設スタッフ・歯科医師・薬剤師などへの啓蒙活動とともに、四国全県の中核拠点病院間の看護師・医師の連携会議を行い、具体的な問題を整理し知識・経験を共有できた。高齢化社会を迎え介護・療養が必要なHIV感染・エイズの増加に対応するために、HIV診療体制の整備は、地方においては特に各病院・施設間の連携の充実が不可欠であり研究を継続し地方のモデルという立場からもさらに向上に努めたい。

Ｆ．健康危険情報

該当なし

Ｇ．研究発表

1．論文発表

1．末盛浩一郎、田中景子、石川明子、小野恵子、芝田佳香、武田玲子、若松綾、宮崎雅美、中尾綾、乗松真大、木村博史、山岡多恵、井門敬子、竹中克斗、高田清式. 愛媛県の各医療機関におけるHIV/AIDS研修会後のアンケート調査を介した比較検討. 日本エイズ学会誌,23(1):26-32,2021

2．高田清式. 臨床検査を使いこなす.EBウイルス、サイトメガロウイルス.日本医師会雑誌生涯教育シリーズ150巻特別号：290-293,2021

3．高田清式. サイトメガロウイルス核酸定量について.モダンメディア67巻7号：14-17,2021

4．中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧正、四國友理、北村優衣、高田清式、武内世生. 医療機関におけるHIV陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み. 日本エイズ学会誌（投稿中）

2．学会発表

1．中尾綾、レイシー清美、末盛浩一郎、河邉憲太郎、山之内純、竹中克斗、高田清式. HIV 感染者の気分状態と関連因子の検討. 日本エイズ学会、2021年、WEB開催.

2．菊池正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、程野哲朗、佐藤かおり、高田清式、杉浦亙、吉村和久他. 国内新規診断未治療HIV 感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1 の動向. 日本エイ

ズ学会、2021 年、WEB 開催.
3. 西田拓洋、中尾綾、臼井麻子、吉川由香、海面敬、赤松祐美、谷英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤穣、窪田良次、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、河邉憲太郎、山之内純、高田清式. 中国四国地方における HIV 関連神経認知. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.
4. 井門敬子、乗松真大、木村博史、中川進平、川上幸伸、若松綾、本園薫、中尾綾、末盛浩一郎、飛鷹範明、田中守、高田清式. HIV 在宅介護研修における薬剤師の活動. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.
5. 中川進平、井門敬子、乗松真大、木村博史、川上幸伸、末盛浩一郎、中尾綾、若松綾、高田清式、飛鷹範明、田中守. 介護ケアセンター職員向けに作成した抗 HIV 薬に関する冊子の評価（第 2 報）. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.
6. 若松綾、本園薫、越智俊元、木原久文、末盛浩一郎、井門敬子、小野恵子、中尾綾、山岡多恵、竹中克斗、高田清式. イスラム教徒の妊婦を多職種で支援した一例. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.
7. 武内世生. 臨床から具体的なワクチン例および接種状況、SCB シンポジウム 3、HIV 感染者のワクチン接種. 日本エイズ学会、2021 年、WEB 開催.

H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし